

「第10回“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	串良まちづくり戦略会議
日時	平成26年10月30日(木)18時30分から20時まで
場所	串良まちづくり戦略会議事務所
参加者	串良まちづくり戦略会議(川添幸一様外13名)
	市長、副市長、市長公室長、串良総合支所長、福祉政策課長、 広報広聴課長、串良地域政策課長

串良ふれあいセンターを活用していく上での課題について

提案：ふれあいセンターについては、トップアスリートではなく、その道を目指している学生等の宿泊施設として考えている。ここを活用するためには、水回りの環境整備が必要不可欠である。合宿では参加者が、多くの共同生活を学ぶが、食事の準備、洗濯など、現時点では施設内ではできない状況であり、調理場の増設により地域の方々を有償ボランティアで雇用することで、地域と一体となった活動も可能となる。

また、現在、入浴は串良さくら温泉を斡旋している。今後もメニューを構築する上で、さくら温泉への斡旋は継続するが、合宿所として考えると併設されている風呂場の再開が望ましい。ただ、ボイラー及び灯油が隣接する給食サービスとの共用であり、光熱費等が明確でない事や、ボイラーの使用に不都合があるため分別が望ましいと考える。

回答：まず、ふれあいセンターを合宿村とするのか意思決定がされていないが、合宿にきたら、そこに全てのサービスがあることよりも、さくら温泉など周りの施設を使いながらの方が良いのではという思いもある。地域の中で役割分担することで、地元にお金が落ちるし、合宿に来た方が地元の方とふれあいがもてるというのもよい。

どういう合宿の構想を持つのか、せっかく串良に来てもらうので、串良らしいやり方があればよいと思う。

施設のメインとなる部屋に文化財が展示されており、文化財目当てに年間800人の方が来館している。合宿所としての機能を考えたとき、この文化財の展示と合宿所としての機能の調整について、皆さんはどう考えているか。

提案：お風呂について、男だけならさくら温泉等に行けば大丈夫だが、特に中高生の女の子たちは行きたがらない部分がある。そういう子達はふれあいセンターのシャワーが使えるが、夜はボイラーが入らない。さくら温泉とふれあいセンターの両パターンで風呂の利用ができればよい。

回答：なぜ、ふれあいセンターの風呂は使えなくなったのか。

提案：市町村合併後、串良地区のみ温泉が2箇所あったので、1箇所閉鎖する必要があり、ふれあいセンターの風呂を閉鎖したと聞いている。

回答：合宿が出来る施設として、どのように考え手を入れていくのか。最初に全てを揃えるのではなく、運営しながら、必要なもの・可能なことをやっていくしかない。今、串良の温泉はさくら温泉だけなのか。

提案：細山田にも昔はあった。

回答：風呂については、ここで、バイオマスで実験をするということも無いわけではないが、費用もかかる。

提案：朝食の問題について、調理場を使わせてもらえば朝食の用意も可能となる。

回答：社会福祉協議会の給食宅配の関係もあるので、調理場の使用は調整が必要だが、飯と汁と卵があれば朝はよいと思う。

夕食にバーベキューがよければ、外の空きスペースに簡易な屋根をつけられればできるし、そこで朝食の炊き出しもできる。

提案：現在、調理場には社会福祉協議会が入っているので、ここから出て行ってほしいと思っているわけではなく、社会福祉協議会の給食と一緒に、この方々に朝食も作ってもらえればそれですむと思う。

回答：色々な仕組みで、地域の皆さんの協力がもらえれば、どうにかできそうな思いはある。ふれあいセンター内の文化財の展示については、どう考えるか。

提案：うまく整理し、文化財のところに、今、入口の左側においてある戦跡を入れて、文化財と融合して展示できればよいと思う。魅力のある施設として合宿の指導者たちに認知されたら、リピーターとなり子供たちを連れてきてもらえる。また、平和公園とのコラボも色々できれば、もっと人が呼べると思う。

回答：皆さんの思いは、個人的には応援したい。皆さんの考えの中で、一番のネックになっていることはなにか。

提案：朝食である。これは皆が言っていることで、いっぱい食べさせてあげたい合宿や、暖かい朝食を出してあげたい合宿がある。

回答：社会福祉協議会に朝ごはんの委託はできないのか。

回答（串良総合支所長）：社会福祉協議会は、朝から宅配用の弁当を作っているのが難しいと思う。

提案：二人で組んで、卵焼きでも作ってくれればと考えており、社会福祉協議会が了承してくれればよいねという話は皆でしている。

回答：地域づくりは、いかに周りを巻き込むかである。社会福祉協議会へのお願いで事が進むのであれば、そのための努力をしないといけない。

あと、風呂の再開にどれ位の費用がかかるか見積もりはさせるが、せっかく串良に来て、ふれあいセンターから一步も出ないのもさびしい気がするので、地域全体で受け入れていければよいと感じる。

提案：あと、洗面所の数が少なく、歯磨き等もトイレでしている状況である。長い流しと水道さえあれば大丈夫なのだが。また、風呂も、必ずしもバスタブがないといけない訳ではないので、シャワーブースをつくろうとの話もあった。今使えるシャワーが男女で5基しかなく、大人数での宿泊となったとき厳しいので、せめて10基はほしい。

回答：例えば、女性は無理だが、室外でドラム缶などで作った風呂に入ってもらったり、田舎でないと味わえないような仕掛けがあれば、子供たちも喜ぶのではないか。

提案：合宿は夏季が多いので、検討してみたい。

回答：串良地域に、合宿などで使えるような、空き家はないのか。

提案：空き家はあるものの、荷物が入っていたり、傾きかけていたり、使えるような家は少ないが、いくつかは、今でも使わせてもらっている家もある。

回答：さくら温泉の環境センターを活用できないか。

提案：清掃センターや串良の畜産農家で実習した後、ふれあいセンターに泊まってもらうのもよいと思う。

回答：今民泊で多いのは、体験は農家が提供してくれるが、宿泊は遠慮される農家がある。1戸の農家に任せると農家も大変なので、体験は農家で、宿泊は別の家庭と分けてよい。今、市役所のOBにも宿泊場所の提供のお願いをしている。

提案：例えば、スポーツに来た監督さんに、ハウスの中で、あの暑さの体験だけでもしませんかと聞くと、ぜひ体験させてくださいと話が返ってくる。

回答：せっかく田舎に来るので、スポーツ&農業体験でもよい。メニューを増やしていくことが大切。

それから、体育大学の剣道の先生の仕掛けで、バスケットでの取組があるが、大阪や愛知など全国から何百人と来る。鹿屋体育大学のネットワークも凄いので、今後、皆さんが連携している鹿児島大学やMBCと併せ、鹿屋体育大学とも連携すればよいのではないか。

以前、皆さんが取り組んでいた、友愛の郷について、ここの耐震の状況はどうか。昭和49年の建築だから、今の耐震基準にはあっていないと思うが。

提案：ここは、鹿児島大学と一緒に耐震検査も含めて国の補助申請を行ったが、不採択だった。事業費が多すぎたものと考えられる。

回答：今後、人口減少時代からの脱却という事で、国も色んなメニューを考えているようなので、そういった事業が出てきたときは、我々も目ざとく気を付けて色々な形で使えるように考えていかないといけないし、皆さんのアイデアがあれば、そういう事業に乗っかることができるかもしれない。

提案：エントランスホールの使い方について、今は、子育て支援課がキッズルームとして使っている。そのこと自体はとてもよいことだと思うが、ここがすべて押さえられると、玄関口なので、もっと有効活用できる方法があるかもと思う。例えば、市議会中に生放送で議会カフェを開いたり、スポーツの大きな大会の時、大きいスクリーンで映してみんなで応援したりするのもよい。

回答：施設のキャパ（広さや収容人数）は決まっているので、皆さんの思いを全て詰め込むと、施設から出てもらわないといけない部署も出てくる。そこをお互いうまく協議しながら、入れ替えていかないと難しいと思う。

提案：確かに、うまく調整しないといけないと感じている。

回答：戦跡などの展示場所についても、それなりの展示場所や置き方から整理が必要である。昔はどこにあったのか。

提案：公民館などにあつたので、昔から展示をするところが必要といわれ、ふれあいセンターを作るときに、ここに入れようとなった。

回答：串良まちづくり戦略会議は任意団体であるが、これをNPOなどにしようという考えはないのか。

提案：NPOも一つの方法だと思うが、例えば、地域の住民から少しずつ出資してもらい株式会社化するなど、任意団体でないところを目指したい。

回答：国等の補助についても、社会貢献活動として公募で企画を取るの、団体の形態なども大事である。

提案：自分達としては、社団法人や株式会社を考えている。そして、儲かった部分は、株主の皆さんにお返しをしたいと考えている。今、NPOもどちらかという儲けに走っている様に思えるので、NPOはどうかという思いはある。

回答：行動を起こすとき、時間軸と空間軸を考えないといけない。最初から理想で行くのか、できることをしながら次のステージに上がるのか。大変だと思うが、いつまでと期限を決めてスピード感を持って取り組んでほしい。
アクアゾーンくしらはどう考えているか。

提案：営業期間が8月末までなので、9月まで延長してほしいとの要望が多い。
また、合宿でも、最終日にアクアゾーンに連れて行っている。

回答（副市長）：先日自分も行ったが、バイトさんなのか、来た人をもてなそうというスタッフの気持ちを強く感じた。

回答：串良のよさが何なのかを良く考えて、表に出していけばよい。スポーツ合宿の受け皿として、ターゲットを絞って取り組んでもらえば面白いと思う。

提案：串良まちづくり戦略会議の特徴は、学習を繰り返していることで、夜の11時から12時くらいまで、毎回一生懸命学んでいる。

自分達のプランの達成度もみんなで自覚しながらやっており、このことを大きなものから直ぐできることまでモデル化して、色々な所で適用できると思うので、成果を見てほしい。

これからの時代、市長の言うとおりに、どうやって周りと繋いでいくかということが大事であり、色々な方々の力添えをいただかないといけないが、この会が信頼ある集団で、串良のことを考えた大事な活動の拠点として、ふれあいセンターでしっかりした事業を展開したいという考えがあり、そのことが更に信頼を得ていくことにもなる。

ここは、次世代が育つ場所で、子供たちを大切にしており、関連する事業としてニュースポーツの開発を行っている。皆の知恵を集めて、子供の遊べる場所を作っていきたいので、そういった次世代を核とした活動も行っていきたい。

また、この会の主要メンバーが30代・40代であることが一つのミソで、どうやって次の世代に繋げていくかということを考えながら企画を練っているので、ぜひ注目していただきたいし、こういう場所に投資していただきたい。その投資を自分のためでなく、いかに串良のため、鹿屋のために皆さんに広げることかということを皆考えている。鹿屋を元気にしたいというのが、一番の思いである。

回答：皆さんが、熱く語っているのが印象的であり、今話のあったとおり、どうやって実現していくかが大事である。一度にはできない部分もあると思うが、今後とも協力いただきたい。

回答：皆さんの思いが詰まった話を聞かせてもらった。串良・鹿屋を元気にする皆さんの思いに我々も答えていきたいと考えているので、今後ともよろしく願いしたい。

